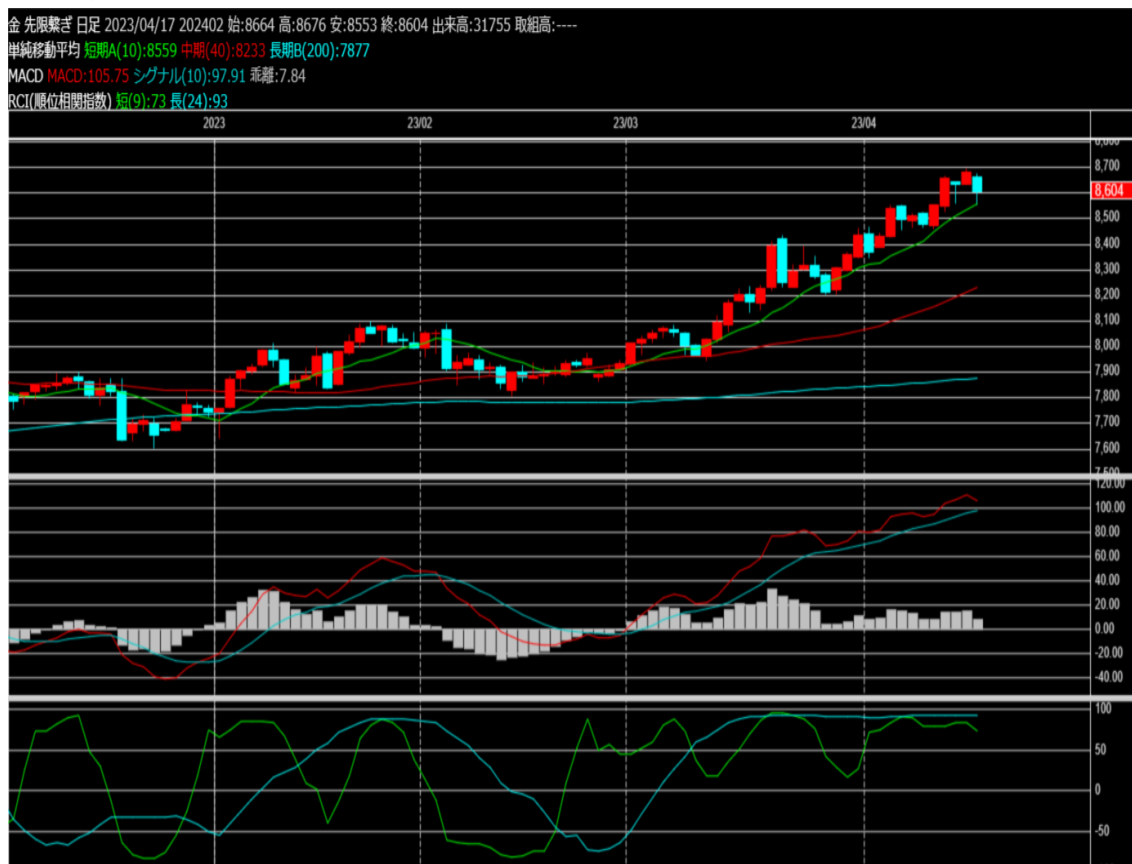


<金標準先物、ユーロドルにおけるドルの巻き戻しに注意・・・>



(出所：オアシス)

先週に消費者物価指数（CPI）、生産者物価指数（PPI）を受けインフレ抑制の結果を受けた金利低下とドル安の動きは、NY 金は 2022 年 3 月に付けた高値 2078.8 ドルに迫る 2063.4 ドルまで押し上げている。特に金融機関の不確実性の高まりは、逃避商品である金の魅力を強める要因でもあり、行き場を失った流動性資金は債券市場や株式市場に比べ市場規模が小さい金市場へ逃避の動きを強めた事が高値を試した要因でもある。

特に前提条件である金利低下のシナリオは、CPI や PPI の低下で 5 月以降の金利据え置き印象を強めるなど、金市場にとってポジティブな投資環境にあった。しかし週末には、ミシガン大消費者信頼感指数の発表で 1 年後のインフレ期待が前月の 3.6%から 4.6%へ上昇し、最近の金価格の上昇を支えていたユーロドルで米国債の金利上昇を機にドルの巻き戻しが強まり見せている。そのため目先金標準先物は 8697 円で高値を出し尽くした可能性は高くなり、目先 8400 円に向けた調整安に備えるのが妥当と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** の上昇が止まり、**シグナル**は上昇を続けるなど、弱気の転換を示すクロスに近付いている。RCI でも**短期**が下げだしているが、**長期**は+94%を維持しており、強気の域の中で調整安の動きが予想される。また **10 日移動平均線**を日足が下回る場合は、基調の転換を示すサインと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 4 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 4 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>